



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト経済：IMF とエジプト政府との交渉、3月末の外貨準備高

(7日付現地各紙)

1. IMF とエジプト政府との交渉

エジプト政府関係者は、IMF 代表団が4月15日までエジプトに滞在するだろうと述べているが、IMF は借款契約成立に向けたスケジュールを設定していない。一部のエコノミストは、IMF の借款を受け入れる場合、国民に不人気な増税や補助金削減の実施が必要になることから、代議員選挙前に合意に達するとの見方に懐疑的である。

一方、4月4日、アラビー計画・国際協力大臣は、IMF との交渉について、以下のように述べた。

- (1) エジプト政府は、2週間以内に IMF の代表団との間で、最初の資金供与を受ける前の基本合意に至るだろうと期待している。また、現在の財政赤字に鑑み、借款を増額する可能性がある。
- (2) IMF との合意は、エジプトにとって、200億米ドルの資金ギャップを埋めるため、2015年6月までに受け取る支援や低金利融資のきっかけとなるだろう。
- (3) IMF との合意は、投資環境に対する信用を高め、外貨の流入および観光の再生を引き起こすこととなるだろう。
- (4) 金融機関や各国政府は、IMF の借款を取りつけた後に資金提供を約束しており、これらの支援に関する交渉は、ワシントンで4月19日に行われる IMF ・世界銀行定期会合で再開されるだろう。

2. 3月末の外貨準備高

- (1) 4月4日、エジプト中央銀行は、3月の外貨準備高が前月より8,400万米ドル減の134億2,400万米ドルになったと発表した。
- (2) エコノミストや投資家などは、今回、2月末と比較して外貨準備高が微減にとどまったのは、中央銀行が外貨準備高の水準を維持するために導入した新たな管理体制が成功していることを受けた前向きな一歩であると述べた。
- (3) 4月3日、シューラー評議会は、渡航者による1万米ドル以上の外貨持ち出しおよび持ち込みを許容する旨の改正法案を承認した。